

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度実施した全国学力・学習状況調査（小学校6年生・中学校 2 年生対象）の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

(1) 教科学習状況調査結果「平均正答率(%)」

	国 語	算 数
神奈川小学校	57%	53%
神奈川県	61%	58%
全国	60.9%	56.4%

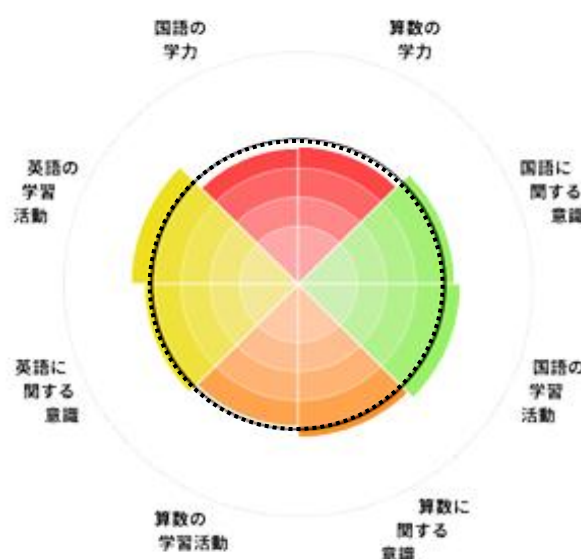
【教科学習状況調査結果の考察】

正答率について本校を全国、神奈川県の平均と比較すると、「国語」と「算数」とどちらとも下回る結果となりました。「国語」では、「書くこと」や「読むこと」について全国の平均正答率を上回りました。しかし「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「情報の取り扱いに関する事項」については全国の平均を下回りました。言葉の特徴や意味・使い方に関して理解し活用したり、情報を調べ精査したりする力を伸ばしていく必要があります。「算数」では、「数と計算」と「変化と関係」の領域において、全国の平均を下回りました。計算問題と正確に解くことにとどまらず、その意味を理解し、日常生活で活用できるようにしていく必要があります。

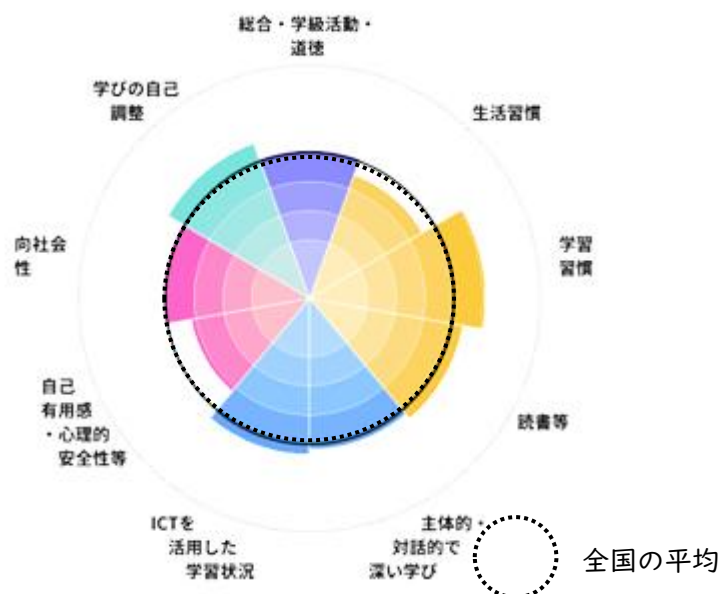
学習内容のより一層の定着・活用を進め、既習事項を生かして自分の考えを表現する力を伸ばしていくようにします。

(2) 質問紙調査結果（教科学力領域は、上記の教科学習の値）

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



【質問紙調査結果の考察】

国語や算数・外国語に関する意識は全国平均よりやや高く、そのまま意識を高めていきたいです。また、「学習習慣」は全国平均を大きく上回っています。学習に対する興味・関心の高さを学力に繋げられるよう授業で、習熟の時間を確保したり、対話を通して理解を深めたりしていきます。

「自己有用感等」は全国平均を大きく下回っています。道徳科の学習の充実や横浜プログラムを活用し、自己有用感を高める学習を充実させていきます。